

2019年度特別支援学校と高等学校との交流及び共同学習実施事業

交流及び共同学習における取組例

県立猪名川高等学校

活動の実際（単元名）

文化祭における巨大アート製作

指導目標

- (1) 共同作業を通して相互理解を図る。
- (2) 3ヶ月にわたる継続的な交流により、親交を深めつつ1つの大きな作品を制作する。
- (3) 生徒自身がテーマを設定し、自主的に作品制作を行うことで生徒の主体性、積極性を育む。

事前学習

5月 県立猪名川高等学校と県立こやの里特別支援学校分教室との懇談会

7月 巨大アート実行委員会

学習活動（具体的な取組）

- ・5月に両校の生徒（本校は福祉交流委員の30人）がお互いに顔合わせをし、自己紹介やゲームを通して相互理解を深めるきっかけとした。
- ・巨大アート実行委員会を設定し、巨大アートについて、お互いに案を出し合い作品のテーマについて深めていった。
- ・決まったテーマに沿って、いくつかのグループに分かれ、協力して作品を仕上げていった。
- ・9月、文化祭当日には、こやの里特別支援学校本校（伊丹市）の生徒も加わり、巨大アートを体育館に設置した。

支援と留意点

- ・3年生の福祉交流委員と1年生の福祉交流委員の半分、2年生の福祉交流委員と1年生の福祉交流委員の半分の2グループに分け、各グループに昨年度の福祉交流委員経験者が入るようにグループ分けを行った。その上で生徒たち自身が各グループで懇談会の進め方やゲームの内容を考え、司会進行が行えるよう、事前の打ち合わせを行った。
- ・各学年から巨大アート実行委員を選出し、両校の生徒主体でスムーズに文化祭のテーマや材料等が話し合えるようにサポートを行った。
- ・両校の生徒がバランスよく混在する形でグループ編成を行った。

評価

福祉交流委員の生徒以外にも声掛けを行い、一部の生徒の活動にならないように工夫した。しかし、クラスの文化祭準備と並行して活動を行うため、参加したくても来られない生徒がいたのは残念であった。

最初は学校ごとに作業するパーツが分かれていたが、作業を進めるにつれ、学校の区別なく一緒に作業し、交流を深める様子が見られたのがとても良い点であった。

活動の様子



両校の生徒と一緒に作業を進めている様子



完成した巨大アートは体育館に吊り下げ展示した

事後学習

全員集まり、最後にミーティングを行った。作品の前にもう一度集まり、活動の振り返りをし、達成感を共有した。同時に次年度の取り組みのために良かったところ、悪かったところを話し、課題を見つける。

成果と課題

- ・継続的な交流を通して、相互理解が深まった。
- ・本校は福祉交流委員が中心に活動を行っていて、毎年文化祭当日は一般生徒も参加できるようにしていたが、参加生徒はいなかった。今年は文化祭の準備段階から声かけを行い、福祉交流委員以外の生徒も5、6名参加できた。次年度は福祉交流委員以外の生徒がもっと参加できるように取り組んでいきたい。
- ・今年度は事後学習が十分とは言えなかった。次年度以降は活動の振り返りや次年度への反省、学んだことなどを福祉交流委員や参加した生徒で振り返る取り組みをしていきたい。